

会 議 記 録			
会議の名称	第5次亀岡市総合計画 検討特別委員会		会議場所 全員協議会室
			担当職員 佐藤・小野
日時	令和2年12月17日（木曜日）	開 議 午前 10 時 00 分	
		閉 議 午後 4 時 42 分	
出席委員	◎木曾 ○平本 三上 富谷 赤坂 小川 小松 菱田 齊藤議長		
執行機関出席者	【市長公室】山内室長、鳥山シティープロモーション担当室長 【企画管理部】浦部長 〔企画調整課〕田中課長、高木副課長、太田企画推進係長、宮本主任 【生涯学習部】田中部長 【総務部】石田部長 【環境市民部】由良部長 【こども未来部】高橋部長 【産業観光部】吉村部長 【まちづくり推進部】並河部長、関事業担当部長 【会計管理室】吉田室長 【上下水道部】阿久根部長 【教育部】片山部長		
事務局出席者	山内事務局長、井上次長、鈴木議事調査係長、佐藤主任、小野主任		
傍聴	市民1名	報道関係者0名	議員5名（長澤、山本、松山、奥野、藤本）

会 議 の 概 要

10:00

[木曾委員長 開議]

[事務局長 日程説明]

1 議案審査

[企画管理部・生涯学習部・産業観光部・こども未来部・教育部入室]

(1) 第18号議案 第5次亀岡市総合計画基本計画を定めることについて

[企画調整課長 各項目について資料に基づき説明]

第4章 (No.24～41)

<三上委員>

保育士などの資質向上やスキルアップは必要であるが、現状や今後10年のことを考えると、保育士などの確保が大きな課題であり、そのためには、一定の待遇改善が必要であると考えているがどうか。

<こども未来部長>

保育士が不足し、待機児童が増えていることは、喫緊の課題であると認識している。保育士の確保は最も優先すべき事項であるが、今後、子どもの人数が減っていくことも想定される中で、現状以上の人数を維持し続けるべきか、慎重に検討していきたいと考えている。

<三上委員>

保育士の確保について、記載が必要ではないか。

<こども未来部長>

第3章の子育て支援の中の「保育・放課後児童会の提供体制の充実」に含まれていると認識していただきたい。

<三上委員>

できれば、人間的な内容の記載ができるならお願いしたい。

<赤坂委員>

基本計画32ページ、「安心して食せる中学校昼食の充実」について、「あり方について調査、研究」と記載があるが、ほかの記載方法はなかったのか。

<教育部長>

中学校昼食については、これまで取り組んできたデリバリー制弁当の充実を図っていくことに加え、議会からの意見を踏まえて、中学校給食の在り方について、全国的な状況やどのような方法ができるのか研究していきたい。

<赤坂委員>

「在り方についても前向きに検討していきます。」といった表現にしてはどうか。

<教育部長>

しっかりと調査、研究し、市民にも説明できるよう取り組んでいきたいと考えている。

<三上委員>

全国で90%以上の自治体が、中学校給食を実施されている中で、何をどのように調査するのか。せめて「実施に向けた検討」といった文言にできないか。

<教育部長>

最終ゴールを見据えて、調査、研究に取り組んでいきたい。

<赤坂委員>

10年間も調査・研究するのか、ということになるので、前向きな文言にした方がよいと考えるがどうか。

<木曾委員長>

ゴールに向けて調査・研究を行うということであったが、「実施に向けて」という文言を入れることはできるか。

<富谷委員>

中学校給食とはどのようなものか、調査することに意味はあると考えるが、市民も実施をゴールと考えているため、在り方だけではなくて、前向きな内容を記載していただきたい。

<三上委員>

「全員制の中学校給食の実施について調査・研究する。」とするのが望ましいと考える。

<木曾委員長>

1年や2年で中学校給食が実現するとは考えていないが、検討するだけではなく、それを進めるための前向きな姿勢が大切と考えるがどうか。

<教育部長>

給食の在り方から始めて、どのような形で進めていくか、実施に向けた取組を研究していきたいと考えている。

<木曾委員長>

この項目は、大変重要な部分であるため、委員や理事者の意見を踏まえて、文言を調整させていただくということによいか。

—了—

<企画管理部長>

この項目については、そのようにさせていただく。

<小松委員>

教育内容の充実について、教職員の資質の向上を図るために教育研究所の役割は大きいと思う。そのため、「教育研究所」を加えるとともに、「連携し」ではなく「通じて」として、「教育研究所、京都府教育総合センターや実践的な研究会などを通じて」と記載してはどうか。

<教育部長>

教育研究所は市の教育委員会所管の教育機関であるため、記載は削除する方が適切だと考える。研究機能を充実させるとともに、就学前から義務教育終了までを見通した切れ目のない支援ができるよう組織体制の充実を図っていくことを記載している。京都府教育総合センターがそれぞれ研修を行う中で、内容に重複、漏れがないようにするという意味で「連携していく」と記載したものである。

<木曾委員長>

教育研究所は、京都府教育総合センターが行う研修を補完する役割があり、記載が複雑になるため、教育研究所という記載を削除したという理解によいか。

<教育部長>

教職員の資質向上も含めた教育の進め方を研究するのが教育研究所であり、その意味を含めて京都府教育総合センターと連携すると整理とした。

<小松委員>

基本計画33ページ、新しい教育への対応について、記載順が外国語教育、プログラミング教育・遠隔ICT学習環境の整備とあるが、GIGAスクール構想のほうが順位は高いと思うがどうか。

<教育部長>

令和2年度から小学校の学習指導要領が大幅に改定された。中学校では来年度から実施される。その中で、すでに外国語教育やプログラミング教育の取組が進められている。GIGAスクール構想は、当初5年ほどかけて導入する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に前倒しして進めることになった。そのため、まずは既に取り組を進めている外国語教育やプログラミング教育をしっかりと取り組んでいくことと、併せてICT教育GIGAスクール構想の取組を進めていきたいという考え方を示した。

<赤坂委員>

かめおか霧の芸術祭の拠点施設の課題に、KIRICAFEと記載した理由は。

<生涯学習部長>

かめおか霧の芸術祭の総合的な拠点施設として運営している。KIRICAFEだけではないが、活動の中心として事業を展開していきたいと思っている。

<赤坂委員>

10年間、かめおか霧の芸術祭では、何をすることもわからない状態なので、記載しない方がよいのではないか。

<生涯学習部長>

かめおか霧の芸術祭を始めるにあたり、京都芸術大学と協定を交わし大学連携、地域住民などとの交流を図る中で、市域に事業展開していきたい。

<赤坂委員>

KIRICAFEを、各地に造っていくということか。

<生涯学習部長>

可能であれば、展開していきたい。

<木曾委員長>

KIRICAFEを含むという表記に修正すれば、広く展開できると考えるがどうか。

<生涯学習部長>

まずは、成功事例を作り、その後に広げていきたいという意図から記載している。

<企画管理部長>

現状としてKIRICAFEというものがあるため記載しているが、今後の10年間の具体的施策、文化芸術にふれる機会の充実と活動の支援にはKIRICAFEという言葉を使わずに内容を掲載している。

<三上委員>

かめおか霧の芸術祭に関わっていない方の中にも、文化・芸術活動を頑張っている方もいる。いろいろな市民の活動を応援する中で、これも頑張りますという内容にしてほしい。その意図からすると、課題としてKIRICAFEで何かをしなければならぬというのはおかしい。文化活動の支援や身近に文化に触れる機会の提供が課題であり、かめおか霧の芸術祭という表記が前にあるが、具体的施策との整合性がとれないため、前文も直すべきであったと思う。

<生涯学習部長>

かめおか霧の芸術祭以外の方で文化・芸術に携わっていない方を除くことなどは一切考えておらず、そのような方とも連携をとりながら、亀岡市の文化・芸術の発展に繋げていきたいと思っている。

<三上委員>

前提として、全体的なこと、特徴的なこと、重点的なことを記載すべきであると思うがどうか。

<生涯学習部長>

表現が、KIRICAFE限定と見えるかもしれないが、亀岡ゆかりのワークショップを開催するなど記載があるので、広い意味で理解していただきたい。

<三上委員>

拠点施設として、開かれたアトリエが出てこないが、そこまで重要ではないという認識なのか。

<生涯学習部長>

開かれたアトリエは、SDGsのモデル事業の発信基地となるため、重要で

- あると認識している。
- <三上委員>
どこかの項目に記載があるのか。
- <木曾委員長>
K I R I C A F Eに限らず、開かれたアトリエや今回補正予算に計上されている環境の拠点施設も含むという表現にしてはどうか。K I R I C A F Eにこだわるのか。
- <生涯学習部長>
それぞれの施設と連携しながら進めていくべきであると考えている。
- <木曾委員長>
このことに関しては、後ほど理事者と調整するというところでよいか。
- 了—
- <小川委員>
文化資料館の来館者数が、令和7年には3万5千人とあるが、施設の在り方などを具現化するという理解でよいか。
- <教育部長>
施設整備などについて検討することとしているが、現施設においても、大河ドラマの放送やドラマ館の開館などを含めて、亀岡の魅力を感じていただける機運が高まっているため、それを生かして来館者数を伸ばしていきたいと考えている。今後、明智光秀公に関連する展示や亀岡の特色あるものを展示することによって、来館者数を増やしていきたい。
- <小川委員>
新資料館に関連するものではなく、現状の取組を前向きに取り組んでいくということか。
- <教育部長>
そのとおりである。
- <三上委員>
32ページ、学校図書館の充実について、他の市町では学校司書を配置している。この分野では、京都府内でも亀岡市は遅れていると考えるがどうか。
- <教育部長>
司書は配置できていないが、派遣することで、補い充実に繋げていきたい。
- <三上委員>
中学校給食と同様に、10年間は何も変化がないということか。
- <教育部長>
校舎の改築、トイレの洋式化、その他の支援策の充実などの課題解決が進めば、教育委員会として教育環境の整備、充実に取り組んでいきたい。
- <三上委員>
学校規模適正化は、集約するだけではなく、規模が小さくても残しておくべきではないかと考えている。一般質問で教育部長から、クラス替えができる規模でないと、という答弁があったが、クラス替えを行うことによる教育効果を検証した学術的データはあるか。
- <教育部長>
公のデータは確認できていない。
- <三上委員>

クラス替えができるほうがよいというのは、部長の考えか。

<教育部長>

個人的な考えではない。クラス替えができることのみを前提としたものと受け止められているのであれば、答弁の不足であったと思う。これを目的として規模適正化に取り組んでいるものではない。亀岡市では、20人程度から800人を超える小学校まである。どのような形で子どもたちの学びの環境を整えていくのか、ということが大きな課題であると考えている。少人数の学校には少人数のよさがあるが、一方で体育の試合や音楽の合唱や合奏など、人数を要する場合もあり、そういったことも含めて子どもの学びの環境を整えていきたいと考えている。

<三上委員>

学校規模適正化の計画では、今、問題がある学校から取り組んでいくという文言があったが、望ましい学習環境や集団活動が整っていない学校はないと思っている。そのことについて、どのように考えているのか。

<教育部長>

教育委員会としても、今の教育環境自体をよりよくしていきたいと考えている。

[企画管理部・生涯学習部・産業観光部・こども未来部・教育部退室]

<休憩 11:24～13:00>

[企画管理部・生涯学習部・環境市民部・産業観光部・まちづくり推進部・教育部入室]

第5章 (No.42～53)

<赤坂委員>

環境美化意識について、「子どもたちの美化意識向上」等の文言を入れてはどうか。

<環境市民部長>

子どもたちの美化意識の向上や教育については、43ページの自然・環境体験学習の充実の項目に明記しており、企業とも協定を結び、環境学習授業を進めているところである。

<赤坂委員>

自然体験と美化意識の向上は少し違うと思うが、今後10年20年と続けていく仕組みづくりが大切であると考えている。子どもが一切なかったことで、小さいときから教育をさせたほうがよいと考えるがどうか。

<木曾委員長>

自然・環境体験学習の充実に「子どもたちの」を付け加えることはできるのか。

<環境市民部長>

子どもたちの教育は大切なことだと考えているので、自然・環境体験学習の項目でも触れており、また、海洋ごみや河川ごみの発生抑制に関する環境保全啓発の項目でも子どもを対象にした事業であるので、この辺りで子どもに

対する教育を進めていく。

<木曾委員長>

「子どもたちの」環境学習授業と追記するだけで大きく変わらないと思うがどうか。

<環境市民部長>

調整する。

<三上委員>

関連して、教育部と連携することも必要だと思うがどうか。

<教育部長>

33ページ、体験活動（ふるさと体験学習）などの充実の項目に入れており、環境部門としっかりと連携し進めていく。

<三上委員>

資料編にプラごみゼロ関係の目標は入ってこないのか。

<環境市民部長>

使い捨てプラスチックごみをなくしていくことが目標であり、ゼロエミッション計画の中でも挙げている。プラごみゼロ宣言を開始したので、より目標達成するように進めていく。

<三上委員>

これは、最上位の計画であるので、その下にゼロエミッション計画などにより、レジ袋の次はペットボトルや作る責任も問う細かい計画が出されると認識してよいか。

<環境市民部長>

総合計画のほかに、それぞれの計画を考えていく。

<小松委員>

43ページ、自然・環境体験学習の充実で記載のある「協定締結企業」はすでに始まっているのか。

<環境市民部長>

現在始まっており、小学校がソフトバンク、中学校がユニクロ、高校がブリタである。学校と連携を取りながら、環境学習を進めているところである。

<小松委員>

それならば、市民団体イコール企業ではないので、42ページ、現状と取り組むべき課題の midpoint 3つ目、「市民団体」の後ろに「等」を入れたほうがよいのではないか。

<環境市民部長>

「等」を入れてもよい。

13:24

第6章 (No.54~67)

<小松委員>

資料編、観光の「入込客数」と「消費額」の目標値は、新型コロナの影響を鑑み算出した目標値と平常時の目標値が記載されているが、結局どちらを取るのか。

<産業観光部長>

当初の目標値は平常時のみであったが、今後コロナの影響がいつまで続くの

か予測がつかないため、幅をもたせ2種類の目標値を記載した。

<三上委員>

資料編、林業の「新規就業者数」の目標値が現在6人で、目標値7人というのは、広大な亀岡の森林を本当に管理できるのか。

<産業観光部長>

森林組合の従業員数であるので、数字だけを見ると消極的であると思われるかもしれないが、従事者を維持するのも大変であり、確保するのはそれ以上に大変である。林業をしているのは、森林組合だけではなく、企業等もあるので、そういったところでも人材育成・確保を進められていると考える。

<菱田委員>

それならば、この項目を上げる必要はないと考えるがどうか。

<産業観光部長>

実際は、実施計画等で各節の具体的施策に、いろいろと進行管理するための目標が掲げられているので、差し替えることは可能である。

<菱田委員>

挙げるならば、管理されている山林や管理されていない山林、植林面積等を挙げたほうがよいと考える。

<平本副委員長>

60ページ、有害鳥獣捕獲の推進の項目に、「里山の再生整備」についての文言を入れることは可能か。

<産業観光部長>

59ページ、「施策の方向性」に「森林経営管理制度の運用」と「鳥獣による農林産物の被害防止」を記載している。

<平本副委員長>

鳥獣対策と里山再生整備は関連がないということか。

<産業観光部長>

大いに関連があると思う。

<平本副委員長>

関連があるのなら、鳥獣捕獲だけではなく、里山の再生整備についても入れていただきたいと考えるがどうか。

<産業観光部長>

調整する。

<三上委員>

58ページと60ページの文言が全く同じであるので、文言を考えていただきたい。

<木曾委員長>

整理をしていただくようお願いする。

<産業観光部長>

調整する。

13:44

[生涯学習部・産業観光部・教育部退室]

<休憩 13:44~13:49>

第7章 (No.68～72)

<三上委員>

73ページ、情報・通信について、市民が使いこなせるようになるための教室等、市民目線の施策が必要だと感じるがどうか。

<総務部長>

情報化推進計画の中に盛り込んでいきたいと考える。

<小松委員>

資料編、公共交通のバス利用者数は、コミュニティバスやふるさとバス等を全て合わせた目標値なのか。

<まちづくり推進部長>

京阪京都交通バス、コミュニティバス、ふるさとバスを全て含んだ、1日の利用者数である。

<小松委員>

第4次の後期では、ふるさとバスとコミュニティバスを分けた数値が載っていたが、分けられないのか。

<まちづくり推進部長>

公共交通の大きな成果指標として、まとめた数値で管理ができると考えている。

<小松委員>

目標値が下がっているがなぜか。

<まちづくり推進部長>

上向きを目指すべきだと考えるが、コロナの影響でインバウンド等の観光需要が少なく、テレワーク等による利用減で何とか現状維持したいという思いで設定した。

14:03

第8章 (No.73～81)

<小松委員>

80ページ、進行管理について、「必要に応じて施策の見直しを検討」とは、計画の見直しを行うということか。

<企画調整課長>

そのとおりである。

<三上委員>

資料編、公募委員比率について、市民参画は公募委員を増やすだけではなく、いろいろな場面で市民の意見や活躍を取り入れていくことだと考えるがどうか。

<企画管理部長>

そのとおりである。この目標値は代表的なものを記載しているが、全体的な市民参画を進める。

<木曾委員長>

77ページ、既存事業の見直しの推進について、以前にも意見を出したが「スクラップアンドビルド」という文言を入れることはできないのか。

<企画管理部長>

総合計画審議会を開いた際に、委員から「スクラップアンドビルドという言葉は一般的なのか、市民には分かりづらい」という意見が出た。よって、「新たな事業を始める際には既存事業を見直す」という言葉で、まさしく「スクラップアンドビルド」を説明する文言になるので、この表現にしたところである。

<木曾委員長>

この計画の中は横文字が多く出てくるにも関わらず、ここだけ「スクラップアンドビルド」という表現をしないのは理解できない。行政用語として今まで出てきているので、検討いただきたい。

<企画管理部長>

検討する。

<木曾委員長>

資料編の目指す目標値について、1年単位のもの、1日単位のもの等ばらばらになっているので、分かりやすい表記をしていただきたい。

<企画管理部長>

分かりやすい表現に見直していく。

<三上委員>

資料編について、この目標で本当によいのかという目標があるかどうか。

<木曾委員長>

目標値の設定について、整理できるか。

<企画管理部長>

各節ごとに最低1つ目標値を掲載するという位置づけで取り組んできたが、議員から空欄があってもよいのではないかという意見をいただいたので、再検討する。

<富谷委員>

コロナ禍の影響を踏まえた目標値を2段目に記載している目標もあるので、統一いただきたい。

<木曾委員長>

公共施設の延床面積削減率を増やしているのはなぜか。

<会計管理室長>

目標は30年間で10.7%を削減するもので、令和7年度までの目標値は4%である。現況では3.33%削減できている。

<木曾委員長>

分かりやすい表現にしてほしい。

<会計管理室長>

検討する。

<三上委員>

ユニバーサルデザインを提唱しているわりには、読みやすいものになっていない。できるだけ、ユニバーサルフォントを使用したり、色使いなども考えていただきたい。

<企画調整課長>

ユニバーサルデザインで分かりやすくということは考えているが、全てをユニバーサルデザインで記載することは、逆に見にくくなるとも考える。可能などところで、見やすさなどを考慮して冊子を作成していきたいと考えている。

14 : 33

[企画管理部除く他退室]

・計画の修正について

<木曾委員長>

計画を修正するかどうかについて協議したいと思う。進め方であるが、事務局で修正箇所について整理してもらい、整理ができた段階で委員に諮る。それを、企画管理部と取扱いについて協議したいと思う。昨日までの分で市長と協議された内容はどうか。

<企画管理部長>

昨日の議論を踏まえ市長、副市長と協議した。市長の意向は、議会からの意見に基づき修正すべきところは、訂正の議案を市側から出すことはやぶさかではないということであった。

<木曾委員長>

市長としては、前向きに捉えて、議会を重視していただいている。今後議会として、修正するのか、理事者側で修正を出していただくかを諮っていきたい。できれば、市長の思いもあるので、市側から修正を出していただきたいと思うがよいか。

<菱田委員>

部長や委員長の発言のとおり、市側から修正を出していただければと考える。

<三上委員>

それでよい。

<木曾委員長>

事務局より、今後の日程について説明願う。

<議会事務局長>

議案訂正に係る具体的な内容を委員の皆様でご確認いただきたいので、ここで、暫時休憩いただき、その間に事務局で訂正内容を確認していただくための資料を作らせていただきたいと考える。それができれば、委員会を再開いただき協議いただきたい。この際、企画管理部にも出席願う。委員会としての訂正内容が固まれば、再度執行部との協議を行っていただくことになる。執行部も本日の協議を踏まえ、市長との調整が必要かと思うので、明日の午後1時30分から委員会を開催し、委員会で訂正の内容が固まれば、その内容を踏まえ、市長から訂正の申し出をいただくことになる。訂正のための本会議の開催が必要になり、22日(火)10時30分の予定で開催する。そのため、21日(月)は、議会運営委員会を開催する。22日の本会議が終了すると、委員会を再度開き議案の質疑、討論、採決を行っていただくことになる。詳細が固まり次第お知らせする。

<木曾委員長>

そのような日程で願います。暫時休憩し、午後3時30分に委員会を再開する。

14:45

<休憩 14:45～15:30>

・ **計画の修正案について**

<木曾委員長>

事務局で、特別委員会が出された意見を取りまとめていただいたが、漏れているもの等があれば言っていただきたい。まずは、事務局から説明願う。

[議会事務局次長 資料に基づき説明]

<木曾委員長>

順次意見を聞いていく。まずは、13ページについて、この内容でよいか。

<富谷委員>

私的な意見として言ったが、修正しなくても差し支えない。

<木曾委員長>

これは修正なしとする。次に13ページ、「セーフコミュニティ、多文化共生のまちへ」についてどうか。

<三上委員>

入れ方が難しいが、表題を「だれもが安心して暮らせるまちへ」にして、ハード面もソフト面も含み、考え方の中に、「災害に強いまちづくりを進め」などを入れなければならないと思う。

<木曾委員長>

表題は変えずに、考え方の最後に、「誰もが安心して暮らせる、災害に強いまちづくりを目指します」にしたほうがよいと考える。

<三上委員>

そうなれば、表題との相違が出てくると思う。「災害に強いまちづくり」の項目を新たに作るべきである。

<小川委員>

項目を増やせるのなら、増やしたほうがよいと考える。

<富谷委員>

三上委員の意見に賛成である。

<木曾委員長>

別の項目を増やすのは難しいと考える。表題と考え方の両方を変えるほうがよいと思う。

<赤坂委員>

表題を「だれもが安心して暮らせる災害に強いまち、多文化共生のまちへ」にして、考え方の中にセーフコミュニティを入れればよいと思う。

<三上委員>

表題を「だれもが安心して暮らせるまちづくり」や「まちへ」にして、考え

方の中に、セーフコミュニティ、多文化共生、災害に強いまちについて入れてもらいたい。

<菱田委員>

1項目増やすか、表題を「だれもが安心して暮らせる災害に強く、セーフコミュニティ、多文化共生のまちへ」にして、考え方の中に、「誰もが安心して暮らせる、災害に強いまちづくりを目指します」にしたほうがよいと考える。

<三上委員>

1項目増やしたほうがよい。重点が増えることで、後の計画がおかしくなるわけではない。

<企画管理部長>

市の考えは、重点テーマの5つは総合計画の骨格となるため、5つでお願いしたい。考え方の中に、災害に強いまちについて追記したいと考える。

<赤坂委員>

表題に入れたほうがよい。

<三上委員>

1項目増やしていただきたい。5項目でなければいけない明確な理由がない。災害に強いまちづくりは骨格から外れたのか。

<菱田委員>

6項目目を作るのが難しいのであれば、表題と考え方の中に入れるほうがよい。

<企画管理部長>

考え方の中に、防災減災対策などの表現をさらに付け加えたいと考える。

<三上委員>

表題を変えないのか。

<企画管理部長>

変えない方向でいきたいと考える。

<赤坂委員>

バランスが悪いので表題を変えたほうがよい。

<企画管理部長>

市長、副市長と協議する。

<三上委員>

「だれもが安心して暮らせるまち、セーフコミュニティ、多文化共生のまちへ」にすればよいが、1項目増やしたほうがよいと思う。

<木曾委員長>

次に、7ページについて、これでよいか。

<赤坂委員>

これでよいと思う。

<企画管理部長>

6ページの1行目の「性的マイノリティ」は削除する。残り6・7ページに出てくる「性的マイノリティ」を変更する。

<木曾委員長>

「多種多様な人材」を「多種多様な人たち」に変更をするようお願いする。

次に、32ページについて、これでよいか。

(了)

<木曾委員長>

次に、40ページについて、これでよいか。

<三上委員>

「かめおか霧の芸術祭」を前にもってくるのではなく、後ろにもっていくべきであり、「身近に～必要があります。」を先にもっていき、そのあとに、「かめおか霧の芸術祭～」をもっていくべきである。

<菱田委員>

「かめおか霧の芸術祭の拠点施設を中心に」にしてはどうか。

<木曾委員長>

現実にかめおか霧の芸術祭は進んでおり、国の補助ももらい動いているので、否定することはできない。かめおか霧の芸術祭だけではないということを盛り込んだほうがよい。

<三上委員>

この文章であると、かめおか霧の芸術祭のみを続ける必要があると読める。

「かめおか霧の芸術祭において、亀岡ゆかりの芸術家のワークショップを開催することをはじめ、～」にすることはどうか。

<企画管理部長>

調整する。

<木曾委員長>

次に、42ページについて、これでよいか。

(了)

<木曾委員長>

次に、43ページについて、これでよいか。

<赤坂委員>

「協定締結企業と連携し、子どもたちの環境学習を」にしてはどうか。

<木曾委員長>

それでよいか。

(了)

<木曾委員長>

次に、60ページについて、これでよいか。

<平本副委員長>

里山がよいのか、森林がよいのか、山林がよいのかどうか。

<木曾委員長>

有害鳥獣であるならば、里山でよいと思う。

<三上委員>

林業であるので、「捕獲の推進」はおかしいのではないか。捕獲の推進を削除するのはどうか。

<木曾委員長>

「有害鳥獣」が3カ所出てくるので、整理が必要である。

<小川委員>

里山の再生ならば、59ページにあるので、文言整理が必要ではないか。

<三上委員>

里山の再生は、里山を有効活用することになるので、こちらは、森林の保全整備になるのではないか。

<菱田委員>

59ページの施策の方向性の中に出てくる「鳥獣による農林産物の被害防止を推進」を、文言整理で考えるべきである。

<企画調整課長>

表題を「有害鳥獣による森林被害対策の推進」にしてはどうかと考える。

<平本副委員長>

本文は「里山」でよいのか。

<木曾委員長>

「里山」を「森林」に変更する。

<三上委員>

「森林」にした場合、「再生整備」でよいのか。

<菱田委員>

「保全」でどうか。

<議会事務局長>

表題を「有害鳥獣による森林被害対策の推進」にし、本文を「有害鳥獣捕獲を推進するとともに、有害鳥獣の被害を防ぐため森林の保全に努める。」でよいか。

<企画管理部長>

本文の最後は「ですます」調で統一するため、「努めます。」にする。

<木曾委員長>

次に、77ページについて「スクラップアンドビルド」はどこに入れるのがよいと考えるのか。

<企画管理部長>

77ページの既存事業の見直しの推進の本文で「新たな事業を始める際には、スクラップアンドビルドを基本に、既存事業を見直し、～」とする。

<小川委員>

資料編にもあったが、修正するのか。

<企画管理部長>

ユニバーサルデザインについても修正を行う。

<木曾委員長>

資料編について、1日、1年などの目標値にばらつきがあったので、明確にしたいがどうか。

<企画管理部長>

各節ごとに、目標値がなくてもよいということだったので、整理したいと考える。資料編は議案ではないので、今回の議案の訂正には含めないが、何らかの形で議会にお示しする。

<議会事務局長>

13ページについて確認だが、表題を「だれもが安心して暮らせるまち、セーフコミュニティ、多文化共生のまちへ」で、考え方の中に、「防災減災に取り組む」や「災害に強いまちを目指す」などを盛り込むことでよかったか。

<木曾委員長>

そのとおりである。

<三上委員>

急傾斜地などは出てこないのか、盛り込んでいただくことはできないのか。

<企画管理部長>

急傾斜地対策については、京都府の所管になるため計画の中に入っていない。

<木曾委員長>

これまで協議した内容を、修正案という形で、理事者側から提案いただくことになる。明日12月18日（金）午後1時30分から、理事者から示していただくことになる。以上で散会する。

～散会 16：42